



年頭所感 平成29年を迎えて

## 社会福祉士は「生きること」を支えます

公益社団法人神奈川県社会福祉士会  
会長 山下 康

新年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

昨年は「津久井やまゆり園」での事件もあり、社会に大きな衝撃が走りました。この事件は、障がい者本人や家族、関係者にとっても大きな不安を抱かせました。しかし、今回の出来事背景には、私たちが乗り越えていかななくてはならない多くの課題が内包されています。私たちは昨年10月14日神奈川県議会において採択された「かながわ憲章」にあるように、命を大切に、「共に生きる社会」の実現をめざし、いかなる偏見や差別、壁を排除するために、引き続き本年も皆さまと一緒に取り組みを前に進めていく所存です。よろしく願いいたします。

さて、私ども社会福祉士会は、地域における社会福祉の担い手として、その専門性を発揮しながら、これまで共生社会の実現に向け取り組んでまいりました。社会福祉士の活動実態としては、高齢分野や障害、児童、学校、病院、行政、司法など幅広い分野に亘っており、それぞれの現場でソーシャルワークの技術を用いながら援助活動を行っています。また、厚生労働省社会保障審議会福祉部会「福祉人材確保対策検討会」の議論では社会福祉士の活用の基本的な考え方として「多様化・複雑化する地域の福祉課題に対応できる能力をさらに開発し活用していくために、具体的な役割の明確化や実践力の強化等のための教育体系の充実に向けた再検証等が必要」とされています。また、活用の方向性としては、キーワードとして「ソーシャルワークの技術を持つ社会福祉士の能力は重要な社会資源」「実践を重視した教育内容の充実」「能力や果たし得る役割についての理解促進」「認定社会福祉士の普及」などがあげられています。

日本の社会では、社会構造・経済状況などの変化から、貧困、失業、差別や虐待、自殺、引きこもり、DV等深刻な

課題が山積し、様々な生活課題が顕在化しています。これらの課題について新しい枠組みや仕組み、制度、法律が必要になってきています。私たち社会福祉士（ソーシャルワーカー）は、2014年に採択された「ソーシャルワークのグローバル定義」にあるように「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である」に基づき、新たな価値観の確立を求めていきます。正にソーシャルアクションを起こすことです。

神奈川県社会福祉士会は、平成24年には公益社団法人としての認可も得てまいりました。そして、新たな時代に対応した福祉を提供する枠組みの中で、私たちソーシャルワーカーは何ができるのか、社会福祉士の可能性を追求してまいりました。引き続き、生活問題や福祉課題を抱える方々に必要不可欠な専門職として、「生きることを支える専門職」としてまた、神奈川県における福祉の未来に向けて取り組みを進めてまいります。本年もよろしく願いいたします。

## CONTENTS

- 02 つくろう はじめよう 認知症カフェ
- 04 平成28年度理事会報告
- 06 支部長に聞く！今年の支部の抱負
- 07 たまひよ紀行(茅ヶ崎支部)
- 07 『平成28年度栄賀一雄記念未来賞』受賞！
- 08 公開講座&研修会・事務局からのお知らせ・編集後記



かのこカフェ



つくる



はじめよう

## 認知症カフェ

厚生労働省が定めた新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）において、「認知症の人の介護者への支援」が謳われています。そして、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有しお互いを理解し合う「認知症カフェ」等の設置が推奨されています。認知症高齢者等にやさしい地域づくりとは何か。その中で、社会福祉士が担うことができる役割とは何か。そのヒントを探しに県内で活動している「認知症カフェ」を訪問しました。社会福祉士には、その専門性を活かしたかかわりが今後ますます求められていくことでしょう。

### 気軽に交流できる雰囲気工夫

平成27年7月にはじまった「おおのだい かのこカフェ」（相模原市南区）は、「シルバータウン相模原特別養護老人ホーム」の主催で毎月1回、施設内のパブリックスペースを利用して運営されています。カフェを始めたきっかけは、地域包括支援センターの業務やキャラバンメイト等を行っている中で認知症カフェの必要性を感じたこと、同じ思いの職員がいたこと、家族介護者のためのボランティアグループ「かたらい」の協力があつたことが大きかったそうです。また、地域住民、認知症当事者の居場所であり、家族介護者の交流と参加しやすい雰囲気のため、「喫茶コーナー」で、ボランティアが飲み物を提供し、気軽に交流できる雰囲気作りを心がけ、元気なうちから、ちょっとした悩みごとでも相談できる「相談コーナー」を設ける工夫をしています。さらに、介護と子育てのダブルケアをしている方や、子どもたちが参加できる「キッズスペース」の設置、カフェの時間に各種講座や企画を行う、施設の入居者も参加することで、施設入居者と住民の地域交流ができることを大切にしているということでした。

担当の松下さんと山田さんによると、①認知症当事者と家族介護者支援の場②地域住民の身近な相談の場③認知症の理解や介護・予防等の普及啓発の場④認知症当事者、家族介護者、ボランティアグループ、地域住民、施設入所者、専門職が出会う場がカフェの価値と教えてくれました。

「開設から1年あまり。今後も『子どもからお年寄りまで安心して暮らせる大野台』を目指します。認知症当事者や家族介護者、住民の方に、気兼ねなく集まってもらいたいですね」（担当者）。

### 地域の見守りはカフェがきっかけ

横浜市青葉区の「プラぶらっとカフェ」は、横浜市たまプラザ地域ケアプラザが主催。平成26年4月からスタートした先駆的存在です。体操、歌、トランプ、手芸、マージャン、おしゃべりなどが「楽しい」「知り合いが増えた」と参加者から大好評です。毎月第4金曜の開催日には40～50人の参加者があります。所長の田中ひろみさん（社会福祉法人緑成会）はこう話します。

「ひとり暮らしの認知症の人が地域の課題として上がり、ケアマネさんたちと認知症の人が集まれる取り組みをやろうと始めました」

たとえば買い物に来る高齢者の様子がおかしい、銀行や郵便局には日に何度もお金を下ろしにくる人がいる、心配だ、そうした声が多くあることに気づいた田中さんたちは、勉強会で知った認知症カフェを立ち上げたのでした。

「たくさんの人に来てもらうため、ケアマネさんたちに声をかけ、デイサービスに行くこともなく自宅に居る人がいれば、こちらから連れに行きました。そのうちご自分から来てくれるようになりました。認知症が気になる方なら誰でも。そう広報してまわりました」

認知症という言葉は出さず、誰でも気軽にぶらっと立ち寄れる居場所をという願いを込めた活動はほどなくその効果が現れました。まず、常識では考えられないほど重度の認知症があつても、カフェには忘れないで来てくれて友達をつくって帰っていく。田中さんたちはそんな効果にまず目を見張りました。やがて金融機関、コンビニ、デパート、飲料販売店、パチンコ店や警察等からも相次いで情報や相談が寄せられるようになっていきましたが、そうした場所に出かけていき、講習会を開き認知症への理解を深めてもらう活動を積み重ねることで、認知症高齢者への理解

を人々に広めていったのです。

「なにより地域の皆さんが顔を覚えてくれ、地域で徘徊していると、ボランティアの人が声をかけてくれるようになりました。こうした地域の見守りの体制が認知症カフェによって出来たのではないかと私は考えています」(田中さん)

## 自立を目指す活動に

運営委員として中心にいるボランティアの菅義昭さんは、カフェにはなくてはならない存在です。「カフェへ来て楽しそうにしている親御さんの姿を見て、介護している娘や息子さんの表情が柔和になり、落ち着いた表情を見ると最高に嬉しいですね」。参加費の100円を払う、好きな活動に参加するなどがすべて自立につながると菅さんは強調します。おかげでできなかった計算ができるようになった人も多いとか。

社会福祉士への期待を聞きました。

「認知症カフェは社会福祉士が大きな役割を担っています。私たちは認知症サポーター養成講座やキャラバン

メイトを主催して広がっていますが、そこでは社会福祉士がよく頑張って、『聞くという専門性』を発揮してくれています。相談が来るのを待っているのではなく、こうした機会をツールにして地域へ出ていけばよいのでは」(田中さん)。

民生委員を応援することや社会福祉協議会等の他機関との連携が今後の課題だそうです。自分たちも楽しいという田中さん。最後は笑顔でエールを送ってくれました。

「認知症がある人を地域のみんなで理解して支えていれば、地域で大きなトラブルは起きないと考えています。認知症を隠してしまうのではなく、見て見ぬふりをしない。その人を弾いたり孤立させないで、カフェに連れてきてほしいと地域の人にはお願いしています。カフェをいっぱいつくりましょう。小さくてもいい。やがて大きくなりますから」。

どちらのカフェも利用者の参加費は100円のみ。今回、私たちは、認知症カフェが起点となり、誰もが安心して暮らせる地域づくりが実現できることを改めて印象づけられました。

(取材・文：及川、倉西)

マーじゃんは頭の体操に



たまプラーザ  
地域ケアプラザの  
田中ひろみ所長



できることは自分たちでも

ここで友だちができた!



活気があふれます



ボランティアもいっしょに楽しむ

ニコニコ笑顔がいっぱい



# <平成28年度理事会報告>

## □第2回理事会

平成28年6月19日(日) 15時～17時 ウィリング横浜5階503

議長 山下会長、理事出席13、議事録署名人：一色・浅見理事、江原監事

**審議事項** 議案1 入退会審査

**協議事項** ①代議員総会意見検討

**報告事項** ①後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ②各事業部委員会2ヶ月事業報告 ③各支部2ヶ月事業報告 ④各推薦後援状況 ⑤会館問題 ⑥日本社会福祉士会総会 ⑦会計進捗状況 ⑧前回臨時理事会議事録 ⑨受託事業進捗状況 その他 ぱあとなあ運営委員会担当副会長の出席確認・苦情案件理事会共有方法の提案・災害対策被災地バスツアー中止提案・担当理事増強提案・熊本県地震募金 <以上承認・了承>

## ■第3回理事会

平成28年8月6日(土) 14時～16時 神奈川県社会福祉会館2階 第2会議室

議長 山下会長、理事出席12、議事録署名人：隅河内・菅野清理事、江原監事

始めに山下会長から、津久井やまゆり園事件に関し黙祷の提案があり全員で黙祷をおこなった。

**審議事項** 議案1 入退会審査 議案2 任意後見審査委員会運営に関する細則 議案3 県委託かながわ感動大賞業務契約 議案4 海老名市社会福祉協議会委託成年後見相談会事業契約 議案5 福祉サービス第三者評価事業契約

**協議事項** ①10月2日役員研修会における内容・講師の検討 ②代議員総会意見書回答検討 ③会計事務所契約検討 ④自殺対策事業部 次年度の横浜市自殺対策事業への要望書提出検討

その他 かながわ災害福祉広域支援ネットワーク運営要綱確認

**報告事項** ①後見人候補者名簿登録・法人後見状況 ②各受託事業進捗状況 ③各推薦後援状況 ④会計進捗状況 ⑤前回臨時理事会議事録確認 ⑥謝金支払基準 ⑦職員採用 ⑧SWDイベント ⑨本会扱苦情 ⑩熊本地震募金集計結果(合計76475円8月5日付、日本社会福祉士会へ送金) <以上承認・了承>

## □臨時理事会

平成28年9月7日(水) 19時～21時 神奈川県社会福祉会館4階 第2研修室

議長 山下会長、理事出席11名 議事録署名人 小島・中丸理事 江原監事

**審議事項** 議案1 入退会審査 議案2 第三者評価事業契約

**協議事項** ①10月2日役員研修会内容 ②支部役員連絡会内容と進め方

**報告事項** ①日本社会福祉士会全国都道府県社会福祉士会会長会議 ②自殺対策次年度横浜市へ要望書の提出 ③後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ④各事業部委員会事業報告 ⑤各支部業報告 ⑥各推薦後援状況 ⑦会計進捗状況 ⑧前回理事会議事録 ⑨会計事務所 ⑩職員採用回覧確認  
その他 ①自殺対策-未遂者支援モデル実施企画書検討<以上承認・了承>

## ■第4回理事会

平成28年10月7日(金) 19時～21時 神奈川県社会福祉会館1階 第3会議室

議長 山下会長、理事出席12名 議事録署名人 鈴木・菅野理事 江原監事

**審議事項** 議案1 入退会審査 議案2 第三者評価事業契約

**協議事項** ①法律相談会開催企画(継続協議)

②支部役員連絡会の今後 ③会計事務所検討 ④自殺対策事業部-自殺対策のための未遂者支援実施企画 ⑤厚木市ホームレス自立支援相談事業相談員推薦 ⑥神奈川県「かながわの福祉のみらいを考える意見交換会」出席検討

**報告事項** ①役員研修会・支部役員連絡会報告 ②児童虐待研修講演会開催予定 ③日本社会福祉士会各研修移管説明会出席報告 ④業務監督委員会実施報告 ⑤神奈川県立入検査予定 ⑥後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ⑦各推薦後援状況 ⑧会計進捗状況 ⑨各受託事業進捗状況 ⑩前回理事会議事録確認  
その他 代議員選挙スケジュール確認<以上承認・了承>

## □臨時理事会

平成28年11月6日(日) 15時～17時 神奈川県民センター304

議長 山下会長、理事出席12名 議事録署名人 浅見・瀬戸理事 江原監事

**審議事項** 議案1 入退会審査審議 議案2 各受託事業の次年度受託検討 議案3 法人後見受任 第4号議案ぱあとなあ神奈川県員対応

**協議事項** ①法律相談会開催企画チラシ確認 ②会計事務所見積合検討

**報告事項** ①後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ②各推薦後援状況 ③会計進捗状況 ④2ヶ月報告(支部・事業部) ⑤前回理事会議事録確認<以上承認・了承>

# 生涯研修センターよりお知らせ

今年度も実践発表大会を開催します。

今年度は、2017年3月4日土曜日に実践発表大会を開催いたします。詳しくは、ホームページに掲載している案内をご覧ください。ほかの方の日頃の福祉実践を発表するいい機会になります。ぜひお申し込みください。今年度から独立型社会福祉士の更新研修の一環としても実施いたします。

## 生涯研修センター主催研修の予定

日時	場所	内容
3月4日土曜日 午後	ウィリング横浜501 研修室	実践発表大会

### 来年度の基礎研修について

来年度の基礎研修の募集については、4月以降ホームページに案内を掲載します。基礎研修Ⅰ、基礎研修Ⅱ修了者については、郵送でもご案内を行う予定です。

2016年度まで実施していた基礎研修ⅡのDVD講習は、今年度より講義形式に変更になるため、受講料が大幅に変更になる予定です。

来年度から成年後見人養成研修の受講要件が、基礎研修Ⅲを修了するまでになりますので、成年後見人を目指される方は基礎研修Ⅲまで受講いただきますようお願いいたします。

支部長に聞く!

# 今年の支部の抱負

～今年の支部活動を漢字1文字で～



## 川崎支部

# 響

新年のお喜びを申し上げます。当支部は、昨年度から新企画として、会員相互の情報交換と交流を発展させる場として、「サロン」を発足しています。会員同志がより良好な関係性を深め、良い「響きあい」を通じて、専門職としての向上が図れることを目標と考えます。人権への重みが増す中、今年は、暖かいニュースで「かわさき」並びに「かながわ」の名前を全国に広めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

支部長(平山 みちる)

## 横浜支部

# 地

昨年の「地域連絡会の集い」では、「地域へ入って行って、つながりをつくらう」という声がありました。今、横浜のあちこちの地域で、住民が様々な取り組みをしています。でも、課題もある。社会福祉士だからできることも、きっとあるはず。そこで今年は「地域に入る・地域とつながる」をテーマに、まずは、地域に入っていくハマの社会福祉士をイメージした、新たなキャラクターを公募するところから始めたいと思います。乞うご期待!

支部長(中島 礼子)

## 県央支部

# 集

県央支部の今年のテーマは「集」。近年は「地域」がテーマとなっており、福祉の分野でも色々な取り組みが地域でなされている中、私たち自身も常に地域の情報を取「集」し、学び、行動していく必要性を感じております。そのために県央支部では毎月定例会を行い、様々な分野と地域で活躍されている社会福祉士の仲間たちと情報交換をし、悩みや相談があれば助け合い、会員の皆さんの力を「集」めて、地域に貢献できることを考え、形にできたらと思っております。まだ支部活動に参加されていない方、久しぶりの方、他支部の方、懇親会なども定期的に行いますので、ぜひ県央支部に「集」ってください!

支部長(金 峻基)

## 湘南東支部

# 縁

「えん」「えにし」とは、人と人とのつながり、物ごととの関わりを意味し、また「結びつく」「交わる」などの意味も含まれます。出会い、機会、関係、など私たち社会福祉士にとっては、人の支援をする上で大切なキーワードになります。湘南東支部では、支部会員同士のつながりを大切にして、それを活かすことにより、今、地域で必要とされること、求められることにたいして、貢献できる活動を具体的に検討し実践していきます。

支部長(小野田 潤)

## 西湘支部

# 連

連携、連絡調整、連続 どれをとっても社会福祉士には大切なことであると日々実感しています。縦に、横に、世代をこえて連なっていくことから、新しい福祉の形がみえてくるように思います。

2017年も社会福祉士会が皆さまを連ねていく一助となることを願います。

支部長(加藤 公)

## 湘南西支部

# 芸

あけましておめでとうございます。今年の湘南西支部は、会員それぞれが様々な福祉の現場や地域社会の中で活躍をしていく上で求められる要素に「芸」があるのではと考えました。芝居やお笑いをやるということではなく、パフォーマンス力ということ。表現という意味を表した「芸」です。福祉の仕事は近年あまり良いイメージで語られていないように感じています。改めて、ひとりひとりが活躍するために、パフォーマンスとエンターテインメントを専門性に加えてみたらいいかなと思います。今年も会員ひとりひとりが、輝いて活躍できるよう祈ります。支部長(伊藤 倫博)

## 相模原支部

# 和

支部のテーマとして「地域に生きる社会福祉士」を掲げています。同時に市民に活かされる社会福祉士となるべく、市民の方々に社会福祉士について知っていただくための啓発活動を進めていきます。そのためにも支部会員同士および市民の方々のつながりを強め、和をもって一丸となって相模原の実情や課題の把握および対応に努めていきます。昨年は相模原で痛ましい出来事も起きてしまったので、平和の気持ちも込めて。

支部長(小針 淳一)

## 横須賀・三浦支部

# 段

会員の皆様、明けましておめでとうございます。横須賀三浦支部では、平成29年を「段」という言葉で迎えたいと思います。制度はめまぐるしく変わり、我々はその変化に柔軟に対応していかなければなりません。そのためには、各自が階段を上るように一つ一つ学びを深めていく必要があります。横須賀三浦支部ではお互いの学びを共有しながらも、不足している点を補えるような企画を持っていきたいと考えております。皆様、本年もどうぞよろしくお願い致します。副支部長(諏訪部 弘之)

# たまひよ紀行

参加者の  
声

「たまひよくらぶ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって、日の浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、茅ヶ崎支部で開催された交流会をご報告します。

## たまひよくらぶ@茅ヶ崎

組織向上委員会で開催している「たまひよくらぶ」、昨年3回目は11/18（金）に茅ヶ崎にて開催しました。当日は昨年社会福祉士になった方、資格取得を考えている方、資格は持っているもののケアワーカー職なので、職場以外の先輩社会福祉士の話を聞きたい方などが参加されました。内容は、湘南東支部副支部長の田中幸治さんによる保育を通じた経験や葛藤の話の後に、グループに分かれて参加されたみなさんの話で盛り上がりました。

今年度は、海老名、溝口、茅ヶ崎で開催し、あと1回3月頃に予定しています（県士会HPにアップする予定です）。仲間づくりに、自分探しに、仕事のモチベーション維持に、気楽にご参加ください。

**参加者の声の一部を紹介します。**「他分野の方の話を聞いてモチベーションが上がりました。お仕事の話を聞くことができ、社会福祉士の業務内容のイメージがで

きました。」「同じ資格をお持ちの方とお話をする機会をいただけて職場内でのモチベーションが少しスッキリしました。このような場を設けていただきありがとうございました。」「職場と全く違う情報を得ることができて楽しかったです。」「皆様すでに福祉の仕事をしておられ実際の現場での話を聞くことができ面白かったです。」

委員からもこんな声が上がっています。「立場等が違って方向性や悩みを密に語り合えることがたまひよの利点です。私自身、今回のたまひよで、以前お会いした方とより関わりを持てることが出来ました。一期一会で終わらない所もたまひよの魅力です。」

参加者の方がたまひよくらぶに期待していることは「つながりや出会い」「他の社会福祉士の仕事内容を知る」「自己研鑽」などが多いようです。

## 『平成28年度糸賀一雄記念未来賞』受賞!



地域や福祉の枠を超えて、今後一層の活躍が期待されるということで、本会会員の牧野賢一さん（相模原支部）が『平成28年度糸賀一雄記念未来賞』を受賞されました。

糸賀一雄記念財団では、「この子らを世の光に」の言葉を残した糸賀一雄氏の思想が、あらゆる個人の尊厳を等しく尊重するという障害の有無、年齢、性別、国籍等を問わない普遍的な思想であることに鑑み、「福祉、教育、医療、労働、経済、文化・スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による生きづらさを抱えた人に関する先進的な取り組み」に対して糸賀一雄記念未来賞を授与しています。

牧野さんは、特定非営利活動法人UCHI理事長でグループホームを運営され、「生きにくさ」を抱える軽度知的障害、発達障害のある人のかかわりの中で、「生きにくさ」の本質を「関係障害」としてとらえ、「関係支援」によって解消するという実践をされています。

また、当事者が「自分史」を作成することを支援し、福祉・教育・司法関係者、家族、学生、市民などに向けて発表する活動をされ、3年前から東京大学でも講義をされています。

本会では司法福祉ネットワーク委員会委員長として、神奈川県弁護士会との協定事業などで、罪を犯した障害のある人の刑事司法手続きにおける支援に携わっておられます。

授賞式は平成28年11月18日に滋賀県草津市で行われ、辻哲夫財団理事長から賞が授与され、式典後には、「罪を犯した障害者の支援について考える」という、牧野さんの実践に因んでのテーマのシンポジウムが行われ、田島良昭氏（最高検察庁参与）、野澤和弘氏（毎日新聞論説委員）、北岡賢剛氏（滋賀県社会福祉事業団理事長）、大場玲子氏（大津保護観察所長）が出席されました。記念レセプションでは三日月大造滋賀県知事も駆けつけ祝辞を述べられました。

（広報担当理事 菅野善也）



月	日	開始時間	終了時間	研修・講座等	概要	場所	主催	対象	費用
1	28	10:30	17:00	社会福祉士 フェスティバル～ ソーシャルワーカーが つなぐ相談の輪～	午前：相続について学ぼう、 午後：暮らしの無料相談会	TKPガーデン シティ横浜	神奈川県 社会福祉 士会	どなたでも ご参加 いただけます	無料
1	29	13:00	17:00	司法福祉 Vol.4 誰もが活かされる 共生社会の実現を！	[講演会]兵庫県明石市の改革を日本の 標準事(スタンダード)に 講師 泉 房徳 明石市長(弁護士・社会福祉士) [パネルディスカッション] 行政・司法・福祉の連携を	TKPガーデン シティ横浜	神奈川県 社会福祉 士会	どなたでも ご参加 いただけます	無料
2	26	10:00	15:30	ちがさきサボセン・ ワイワイまつり	クイズ、パネル展示、福祉相談、 バザー、スタンプラリー	茅ヶ崎中央公園	湘南 東支部 (出展)	どなたでも ご参加 いただけます	無料
3	4	13:00	17:00	コミュニティソーシャ ルワーク実践講座 第6回	地域向け報告会準備	横浜市港南区福 祉保健活動拠点	横浜支部	当研修に 賛同し、 全8回を 申し込んだ方	全8回 8000円
3	26	15:30	17:00	コミュニティソーシャ ルワーク実践講座 第7回	地域向け報告会(地域での研 修・勉強会活動に関するイン タビュー分析結果の発表)	横浜市野庭地域 ケアプラザ(横浜 市港南区内)	横浜支部	報告会の 聴講は 誰でも可	聴講のみ は無料
4	23	14:30	16:30	コミュニティソーシャ ルワーク実践講座 第8回	会員向け報告会 (横浜支部全体会第2部)	横浜市西区福祉 保健活動拠点	横浜支部	報告会の 聴講は 誰でも可	聴講のみ は無料
4	23	13:30	14:20	横浜支部全体会 (第1部)	支部活動の報告等	横浜市西区福祉 保健活動拠点	横浜支部	横浜支部会員 (オブザー バー参加は 誰でも可)	無料

## 事務局からのお知らせ

2017年度基礎研修Iについては2017年4月上旬に本会ホームページに案内を掲載いたしますのでご確認ください。

本会年会費についてご納入ありがとうございました。2017年度の年会費1万4千円については、2017年4月1日現在の会員の方について、4月12日付けで引き落としさせていただきます。会費は年度ごとのご納入となっておりますので、退会や転出のご連絡については、必ず3月30日までに事務局へご連絡ください。引落手数料は118円となります。会費引落口座の残高について予めご確認くださいませようお願い申し上げます。

### 編集後記

みなさま、遅ればせながら明けましておめでとうございます。本年もお付き合いのほど、よろしく願い申し上げます。

さて、本年最初の号はいかがでしたでしょうか。半ばコラムと化した小欄に何を書こうか思索していたおり、子供たちと散歩に出た道すがら、新成人の方を見かけました。

谷川俊太郎さんの「成人の日に」という詩の一節を思い返す。「成人とは人に成ること、もしそうなら私たちは日々成人の日を生きている、完全な人間はどこにもいない～中略～他人のうちに自分と同じ美しさをみとめ、自分のうちに他人と同じ醜さをみとめ…」と続く。

行きすぎた「個」の尊重はともすれば、「自分さえ良ければ」という他人を顧みない社会を構成しかねない。子供たちの手を握りながら、「君たちは他人(ひと)の喜びや悲しみも自分のことのように感じられる心、生きることの楽しさや素晴らしさを感じながら、ただ一段一段、大人への階段をゆっくりと昇って欲しい…」そんなやさやかな願いをその小さな手に込めながら、その新成人を見送った。

何かと多忙な年末年始が一段落したみなさま、谷川俊太郎さんの「成人の日に」という詩を是非一度読んでみてください。きっとそこには「生きるヒント」が見つかるのではないのでしょうか。

(広報委員長：日向 明)